

「人権」について考える

神河町立神崎小学校六年（当時学年）

山本 理湧

今、世界ではウクライナとロシア、ハマスとイスラエルの戦争が起こっています。そのことについて、ぼくはなぜこういった戦争が起こってしまうのかを疑問に思いました。

ぼくの家では、NHKのトップニュースを毎日見えています。そのニュースのいいところは、いろいろな国のニュースを紹介し、アナウンサーがそのニュースについて解説してくれるところです。この番組を見て、持っていた疑問について、気づいたことがあります。

それは、どの国も自分の国が一番大切だと思っているということと、過去のことにはかり目を向けているということです。例えば、ロシアはウクライナを旧ソ連時代は自分の国だったと主張しています。また、イスラエルは旧約聖書の時代のパレスチナは、神から与えられたイスラエル国民のための土地であると主張しています。

このことに気づいた時に、ぼくたちも同じだなと感じました。自分と違う意見の人がいると、受け入れることができなかったり、相手との過去にあったことをいつまでも引きずってしまったりしていることがよくあります。だから、戦争はぼくたちに全く関係のないことではないと思いました。

では、人間としてよくある気持ちだからと言って、戦争が起こってしまっても良いのでしょうか。ぼくはやっぱりよくないと思います。だから、今学校でいろいろなことを学び、経験しているのだと思いました。

六年一組では、四月の始業式の日から、「リセットしよう。」

という言葉を使うようになりました。今までにいろいろなことがあったけど、それを引きずっていたらいつまでも仲良くなりません。過去のことから学んで、これからのことを大切にしていって、よい関係を作っていくようにしています。そうすると、みんなががんばっていくという明るい気持ちになります。

また、一学期の間に自分たちで話し合ってつくった学級憲法のなかに、「とりあえず受け入れよう。」「違いを大切にしよう。」「という目標を入れました。授業中の話し合いで、自分が少数派の意見であっても、みんなが一生けん命意見を聞いてくれます。話し合いが終わった後には、

「おかげで勉強になったわ。ありがとう。」

と言ってくれます。違う意見を持っても、自分もここにいてよかったのだなと思えます。逆に、自分とはちがう意見を持っている人のことを、すごいなあと思えるようになりました。それを友だちに伝えると、

「いやいや。」

とはずかしそうにするけど、うれしそうでした。過去にとらわれず、ちがいが大切にされ、自分も相手も大切にされることは、とても幸せなことなのだなと感じています。

これらのことを大切にしていって、これからも「人権」の意味を考えて続けていきたいです。そして、それが世界で起こっている悲しい出来事を、少しでもなくすことにつながったらうれしいです。

【二〇二四年度第十九号

神河町人権文集「かみかわの子」より】

～ 8月は「人権文化をすすめる県民運動」推進強調月間です ～

兵庫県では、すべての人の人権が尊重され、年齢や性別、障がいの有無、国籍などに関わりなく、一人一人の個性が大切にされる社会の実現をめざしています。

そのためには、「共生の心」を培う人権意識の高揚を進め、一人一人が相手の気持ちや立場を理解し、思いやる感性を磨いていくことが大切です。

お互いの人権の尊重を感性として育み、日常生活のなかで人権尊重を自然に態度や行動として表すことが文化として定着している社会をめざして、8月をその推進強調月間と定め、さまざまな啓発活動を展開しています。